

風しん第5期予防接種説明書

*風しん抗体検査を行った結果、抗体価が十分でない（HI法8倍以下相当）方が対象となります。

1. 風しんについて

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって起こる急性の発疹性感染症です。潜伏期間は2～3週間で、発熱、発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。大人がかかると、発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされており、まれに脳炎や血小板減少性紫斑病を合併することがあります。

また、妊娠初期の女性が感染すると、胎児が白内障、先天性心疾患、難聴などを症状とする「先天性風しん症候群」にかかる可能性があります。

2. 予防接種の効果と副反応について

ワクチンを接種することで、95%程度の方が免疫を獲得することができますと言われています。副反応としては、接種直後から数日中に発熱、発疹、じん麻疹などがみられることがあります。局所症状として接種部位の発赤、腫れ、疼痛などがみられることがあります。また、極めてまれに、アナフィラキシー（じん麻疹、呼吸困難など）、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎、脳炎などが起こることがあります。

3. 予防接種を受けることができない方

- (1) 接種当日、体温が37.5℃以上ある方
- (2) 重い急性の病気にかかっていることが明らかな方
- (3) 予防接種の接種液に含まれる成分によって、アナフィラキシー(じん麻疹・呼吸困難など)を起こしたことがある方
- (4) その他、医師が不適切な状態と判断した場合

4. 予防接種を受けるとき医師とよく相談しなくてはならない方

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある方
- (2) 以前に受けた予防接種で、接種後2日以内に発熱、全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある方
- (3) 今までにけいれんを起こしたことがある方
- (4) 今までに免疫不全と診断されたことがある方、先天性免疫不全症の近親者がいる方
- (5) この予防接種の成分によって、アレルギーを起こす可能性がある方

5. 予防接種を受けたあとの注意

- (1) 接種後30分は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- (2) 接種した部位を清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、注射したところをこすりはやめましょう。
- (3) 激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。
- (4) 接種部位の異常な反応や体調の変化などがあれば、速やかに医師の診断を受けてください。
- (5) 接種後、違う種類の注射生ワクチン（水痘ワクチン、黄熱ワクチンなど）を接種する場合は、27日以上間隔をあけてください。

6. 予防接種健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障がでるような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく救済制度があります。

(厚生労働大臣の認定を受けた方に限ります。)

<お問い合わせ先>

高知市保健所 地域保健課 予防接種・感染症対策室

電話番号：088-821-6514